# いずみの園だより vol.62

クリスマス号

2014.12.5


信望愛

Since1978

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。　コリントの信徒への手紙Ⅰ13:13

基本理念

神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする

❶アメニティ（快適主義）❷ヒューマニティ（人間主義）❸ローカリティ（地域主義）


社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団

中津総合ケアセンターいずみの園

〒871-0162 大分県中津市永添 2744　TEL0979-23-1616 ㈹

http://www.izuminosono.jp　E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

デイサービスセンターふれあい館

## 『平和を創りだす人々』

社会福祉法人
九州キリスト教社会福祉事業団

監　事

山口貞嘉


今年度のノーベル平和賞は、わずか17歳のパキスタン女子学生マララ・ユスフザイさんと、インドのカイラッシュ・サティヤルティさんに受賞の名誉が与えられました。

残念でしたが、私達日本人が期待していた日本の平和憲法9条については、今回の受賞とはなりませんでした。いずれも、全世界が、「平和」を強烈に意識させられた受賞であったことに違いありません。

私は今年の夏、広島の「平和記念式典」に出席してきました。日本ではあの忌まわしい原爆投下の悲劇から69年間、「平和」が保たれています。それは日本人の誇りであり、世界に「平和」を発信し続けてきたからにほかなりません。戦争の悲惨さを生々しく証言できる方は、80歳以上の高齢者に限られてしまいましたので、戦争の否定を「平和」に向けて発信できる方は、戦争未体験の次世代の方々に委ねられております。

現在の日本では、少子・高齢化が、急速に進むなかにあって、献身的に、力強く支えて頂いているのは、老人介護、幼児保育、障がい害者支援等、福祉に携わる方々の献身的奉仕あってのことです。かつて家族、地域の共同体によって支えられていた人と人とのつながりは、生活の多極化で、今や崩壊の瀬戸際に立たされ、誰かが手助けをしなければ、平和の実現は遠いものになってしまいます。

「いずみの園」の各施設で働いて頂いている職員の方々は、介護の専門的知識を持って、ひたむきに一生懸命、各施設を支え、「平和を創りだす人々」であることにほかなりません。心から感謝するものです。

（マタイによる福音書5章7節～9節）

憐れみ深い人々は、幸いである。
その人たちは、憐れみを受ける。
心の清い人々は、幸いである。
その人たちは、神を見る。
平和を実現する人々は、幸いである。
その人たちは、神の子と呼ばれる。

# 2014年度第2回理事会・評議員会が開催されました。

11月20日（木）、10時30分から、当園地域交流ホーム「いずみ館」で2014年度第2回法人理事会・評議員会が開催されました。

午前中は評議員会で欠員1名を除く全員に出席いただき、まず、理事長から社会福祉法人を巡る情勢と当法人の活動状況についての挨拶のあと、議題に入り理事の選任と議案の評議を行いました。

引き続いて午後の理事会は、新理事も加え全員の出席で、①新評議員の理事長提案への同意 ②2014年度補正（第1次）予算案 ③「福祉の里センターサマリア館」事業開始に伴う定款変更申請案 ④「保育士等処遇改善臨時特例事業補助金」を一時金として職員に支給する件 ⑤2014年度県（市）指導監査結果 ⑥規程（就業規程等）改正案が審議され、全会一致で承認されました。なお、新評議員として福成清子さんが承認され、次回の評議員会から出席されます。

また、報告事項については、①「福祉の里センターサマリア館」交付金・助成金及び入札結果について ②東日本被災地への人的応援について ③『いずみの園地域貢献事業紹介冊子』の発行などについては討議、二、三の意見交換のあと了承され、14時に散会しました。

（法人本部事務局）

理事会の様子

評議員会の様子

## 《新理事のご紹介》

木村 武夫 新理事

4月以降、理事1名が欠員でしたが、11月20日の評議員会で木村武夫評議員が理事に選任されました。なお、木村理事は評議員も兼ねられます。任期は2015年9月5日までです。

## 「いずみの園地域貢献事業紹介冊子」を発行しました

今年7月、厚生労働省において「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」のまとめが出され、非営利法人として4つの役割と、地域活性化に貢献するという公共的な役割が提起されました。

当「いずみの園」では、これまでも地域の様々な福祉課題に積極的に取り組んできたと考えていますが、地域貢献について〝見える化〟を図るため、『中津総合ケアセンターいずみの園として地域とつながり、地域社会へ貢献する事業〈紹介冊子〉』を作成、10月1日に発行しました。

なお、この紹介冊子は、11月5、6日に福島県で行われた全国社会福祉法人経営者大会において、第1分科会〈高齢者福祉分野〉のパネルディスカッションで、当法人冨永理事長が登壇した際、資料として配布されました。

※当園ホームページの「園だより・広報誌等」に掲載していますので、ご覧ください。

ホームページ：http://www.izuminosono.jp

（経営企画室）

社会福祉法人
九州キリスト教社会福祉事業団

『中津総合ケアセンター いずみの園』として
地域とつながり、地域社会へ貢献する事業

紹介冊子

2014年10月

## 人事異動

2014年8月1日以降

**❶ 異動役職者**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9月21日付 | 中野 | 尚義 | 訪問看護課　主任 |
| 10月27日付 | 松井 | 学 | デイサービスふれんど館　主任 |

**❷ 異動一般職**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 8月21日付 | 中尾 | 利恵 | 中央サポートセンター　介護員 |
| 9月 1日付 | 水嶋 | 裕介 | デイサービスふれあい館　介護員 |
| | 中西 | 妙子 | デイサービスかきぜ　介護員 |
| 11月 1日付 | 山本 | 咲 | 訪問看護課　看護師 |
| | 恵良 | 智美 | デイサービスふれんど館　看護師 |
| | 中村 | 純子 | デイサービスふれあい館　看護師 |

**❸ 新採用**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 8月21日付 | 石丸百合子 | かきぜグループホーム | 介護員 |
| | 冨田由希恵 | 中央サポートセンター | 作業療法士 |
| 9月 1日付 | 古梶 智子 | 看護課 | 看護師 |
| | 末永 愛美 | 介護課 | 介護員 |
| 9月 2日付 | 佐藤 佑香 | デイサービスふれんど館 | 介護員 |
| 9月 8日付 | 小橋 久美 | 訪問看護課 | 看護師 |
| | 上田 麻愛 | デイサービス北堀川 | 看護師 |
| 9月11日付 | 川端 郁美 | 介護課 | 介護員 |
| 10月 6日付 | 冨永 義道 | 介護課 | 介護員 |

（以上2014年11月30日まで）

# 韓国福祉事情視察団報告

10月9～11日の3日間、冨永理事長は大分県の福祉関係者（御手洗大分県経営協会長以下18名）とソウルを訪問、韓国の福祉事情を視察して来ました。

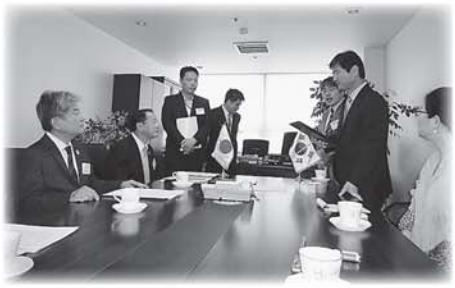
韓国の高齢化率は現在12％程度ですが、日本より少ない子どもの出生率から、いずれ高齢社会問題は日本を超えるのではないかと言われています。

韓国では2008年7月に介護保険制度（老人長期療養保険）を導入、将来の高齢化社会に備えて施設整備が始まっています。今回、ソウル市内の代表的施設、東明老人福祉センター（定員90名、グループホーム7名）、ソウル特別市立西部老人専門療養センター（定員320名）の2ヶ所を視察しました。平均年齢は80歳から85歳、認知症の人が60～75％ということでした。

その後、韓日福祉フォーラムが行われ韓国側は韓国社会福祉協議会車興奉（チャ・フンボン）会長が「韓国老人長期療養保険制度の現状と課題」と題して講演があり、今後両国の高齢化社会に向けて協力していくことが話し合われました。

（法人本部事務局）

車興奉韓国社会福祉協議会会長を訪問


韓国老人福祉中央会会長と懇談

# いずみの園チャレンジ元気アップ教室

デイサービスかきぜ　課長　河野　和樹

「いずみの園デイサービスセンターかきぜ」では、中津市より介護予防事業の委託を受け、9月～11月毎週木曜日に「チャレンジ元気アップ教室」を行いました。

作業療法士を中心に自宅でも取り組みやすい体操、管理栄養士による栄養指導、歯科衛生士からの口腔清掃の実技指導、言語聴覚士の口腔体操などを行いました。

この教室活動には蛎瀬地域の方々が多く参加され、この教室に参加することで「体の状態が良くなってきた」との声も頂くことができました。少しでも地域の方のお役に立てたことを何よりも嬉しく思います。今後も地域の方と共に歩み、地域の福祉拠点としての役割を果たして行けるよう努めて参ります。

作業療法士による体操

管理栄養士による栄養指導

# いずみの園での実習及び研修の受け入れについて

「いずみの園研修センター」は、大きく分けて2つの実習・研修の受け入れコースがあります。

まず、『大分県地域介護・実習普及センター』としての教室開催や出張教室。もう1つは、研修センターとして、小学生から高校生の福祉の体験学習、高校生から大学生までの資格取得に向けた実習や高校生のインターンシップの受け入れ、各種団体の福祉体験や見学研修です。

今年度も多くの方々に、福祉について学ぶ機会を持って頂いています。

昨年の実績では、『介護実習普及センター』で学ばれた方は、延べ1，556人、見学研修に来られた方は、延べ553人となっています。今年度はさらに上回る方々が、体験学習や見学研修に来られています。県民、市民の方々にお役に立てる学びの場の提供に努めたいと思います。

（いずみの園研修センター担当　岩﨑・安藤）

中学生の職場体験

高校生（看護科）の実習

# 介護・医療連携推進会議開催について

在宅サービス事業部
訪問介護課
課長　山本　さつき

この会議は、サービス提供の適正化や評価、また要望・助言等をお聴きする目的で、地域密着型サービスである「いずみの園コールセンター24時間サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）」を提供するにあたり、3ケ月に1度の開催が義務付けられています。

メンバーは、ご利用者やそのご家族、地域住民の代表、医療関係者、市役所職員や地域包括支援センターの職員、有識者、事業者の訪問介護・訪問看護スタッフ等で構成されています。

2012年5月にこのサービスを開始して、約2年6ケ月が経過し、開始当時とは構成員メンバーも入れ替わりましたが、それぞれの立場からの要望や専門性のあるご意見を頂いています。

ご家族はご利用者本人の想いを在宅生活の継続に託しますが、加齢にともない身体状況は日一日と低下していく状況から、ご家族としての想いや悩みをお話しして頂き、同時に介護、看護またご本人に関わる方々やこのサービスへの感謝の言葉を頂きます。

この様な時、私達はご本人・ご家族と共に、多職種連携を図りながら、ご本人の希望を叶えたいと強く思います。

今後このサービスが必要とされるご利用者の皆様に、この会議が有効に活用されることでより良いサービスとなるように、また医療・介護の連携を構築していく会議としての役割を果たしていきたいと思います。

介護・医療連携推進会議の様子

# いずみの園広場（ひろば）

## ご利用者ご家族の声

### 特別養護老人ホームいずみの園 本館

竹本キミヱ様のご家族　林　寿代 様

2001年11月、飯塚で一人暮しをしていた伯母が脳梗塞で倒れたという連絡を受けてから、早いもので13年になります。米寿のお祝いを戴いた年でした。

湯布院厚生年金病院での半年間に及ぶリハビリ治療後、生まれ故郷の今津で車椅子生活が始まりました。

「いずみの園」には退院直後からお世話になり、平日はデイサービスとリハビリを、ショートステイも月に1度利用させて頂いておりました。

2013年、99歳になった伯母の身体機能低下と両親の体調不良が重なり、介護の不安をケアマネジャーに相談、「共倒れにならないように」という言葉に背中を押して頂いて、伯母を手放す負い目や寂しさと葛藤しながらも、特養でお世話になることにしました。

面会のたびに、空調の効いた広い館内でスタッフの皆様から温かい見守りの目が向けられている環境の良さを感じ、自宅で一人私の帰りを待っていた以前の暮しを思うと、伯母にとっても良い選択だったのだと思います。

今年1月元気で百歳を迎え、総理大臣表彰を戴けたのも、これまで係わって下さった「いずみの園」のスタッフの皆様のおかげと心から感謝しております。これからも伯母の素敵な笑顔が長く続きますように、宜しくお願い致します。

## ご利用者ご家族の声

### デイサービスセンターふれんど館

久保延子様のご家族　久保美智子 様

「いずみの園デイサービスセンターふれんど館」の皆様、お世話になっています。

「笑顔が人を幸福にする」

私は今、この言葉を実感しています。

母は、病とたたかい、苦しい日々がどれだけ続いているかわかりません。

歩行器で歩いていた時もありましたが、今では人の介護なしでは、日常の基本的な生活も困難となってしまいました。

それに伴い、笑顔は、少しづつ消えていく有様でした。このまま母は、笑う事を忘れてしまうのだろうか？そんな時、「いずみの園デイサービスセンターふれんど館」を利用させていただく事になりました。

週3回の利用は、母も楽しみにしている様です。

スタッフの皆様のやさしい言葉、細やかな心づかいの御陰で、母の表情は、次第に変化して、笑顔が増えてきました。

笑顔が増えたのは、母だけでなく、私自身も救われたのは、言うまでもありません。

私達家族が今、笑顔でいられるのは、「いずみの園」の皆様のお力添え！有りがとうございます。これからも、私たち家族を応援してくださる様、お願い申し上げます。

職場紹介シリーズ㉓

## 多機能型事業所 ワークセンター シャローム

『障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）』に基づく、「多機能型事業所（就労継続支援A型・B型）ワークセンターシャローム」は、2013年4月に開設されました。

この事業の目的は、障がいのある方が仕事を通じて、収入を得るとともに、生活リズムを整え、社会人としての1ステップとなるよう支援することです。

就労継続支援A型では、雇用契約に基づき最低賃金を保障し、法人内外の施設のメンテナンス作業、法人内レストランのホール係に、就労継続支援B型では、非雇用の形態で、クリーニング作業、農作業、その他の軽作業にそれぞれ障がいのある方が従事しています。

また、当事業所では、余暇活動として、旅行やバーベキュー、茶話会等の様々な行事も行っています。

このような仕事や余暇活動を通じて、障がいのある方の自立と社会参加が進み、本事業が『共生社会』の実現の一助になればと願っています。

スタッフです

B型：農作業の様子

職場紹介シリーズ㉔

## 総務部 管理・財務課

総務部は管理課、財務課に分かれています。

「管理課」は人事・労務・機器の保守管理が主な業務です。

「財務課」は年度予算を基に、資金繰りや支払い等の出納管理が主な業務です。計算書類などに集中して、固いイメージの「管理と財務」ですが、全てのお客様との、繋がりを大切にしたいと考えています。

また管理課には栄養担当、庶務、「マリアガーデン」があり、栄養担当は、食事提供の責任者として、個々の健康状態に合わせ、四季や五節句を感じ、見て美味しい、食べて美味しい食事の提供を行っています。

庶務は、設備機器の点検、各種不具合の対応を行っています。庭木の剪定はプロ並みの技術で、施設内外の美観を守っています。

「マリアガーデン」は、福利厚生を目的とした保育施設として、0歳から就学前の職員のお子さんをお預かりしています。休憩時間に顔を見に行くことのできる身近な保育施設として利用されています。

総務部は、明るく爽やかな施設作り、働き易い職場作りに努めて行きます。

スタッフです

マリアガーデンの様子

## 介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級研修）の活動について

在宅サービス事業部
訪問介護課
主任　里見ひとみ

介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級研修）は、訪問介護や施設・在宅で介護をする上で、介護の基礎を学ぶ資格で、「いずみの園」の各事業所で多くの職員が取得しています。

私は、訪問介護課に所属しており、サービス提供責任者兼務ホームヘルパーとして、在宅のご利用者のお宅への訪問を行い、ケアプランに沿って、その人らしい毎日が送れるように支援しています。

入浴、排泄、更衣等の身体介護や困難になった生活援助の一部等、状態に応じて、自立支援、尊厳保持、安心して生活ができる事を視点において、専門性を生かし、訪問活動を行っています。体調観察では、早めの気づきで病状が悪化せず、元気になられて日常生活を送っているケースも多いです。

ヘルパーの訪問により、24時間、365日安全に安心した生活が送れる姿や、ご家族から、ヘルパーさんが来てくれるので安心、私も頑張れますとのお言葉をいただく時は、本当に充実感を感じています。

1対1の個別ケアができる事で、相手をよく知り、課題が把握できて、ケアプランに結びつき、心身機能、生活の質の向上につながる事が、ヘルパーの役割として果たせることに喜びを感じます。

これからも、住み慣れた地域で、我が家で暮らしたいと願うご利用者に、24時間、365日より良いケアが提供できるように頑張りたいと思います。

食事介助の様子

# 福島県相双地域の特別養護老人ホームへの派遣

「九社連社会福祉法人経営者協議会」の提唱により、福島県南相馬市にある特別養護老人ホーム「長寿荘」へ、2014年9月14日～9月30日の2週間、特養事業部介護課の川口介護員、上坂介護員の2名が応援派遣に行きました。お2人に感想を聞きました。

特養事業部　介護課
介護福祉士　川口千佐枝

2014年9月14日～9月30日の2週間、福島県南相馬市原町「特別養護老人ホーム長寿荘」に上坂介護員と二人で介護の支援に参加しました。福島駅より、バスに乗りしばらく行くと飯舘村に入りました。するとそこには草がぼうぼうと生え、フレコンパック(廃棄物を入れる袋)が並ぶ異様な光景が見えてきました。民家はありますが、人影はなく、広大な区域に荒涼とした風景が広がり、さらに津波被害があった小高地区は復興にはほど遠い光景が広がっていました。

さて、派遣施設の「長寿荘」では、食事、排泄、入浴などの支援を主に行いましたが、せっかくこうしたご縁を頂いのだから何か一つご利用者の心に残るものをと考え、大分の郷土料理の「だんご汁」を作り、味わってもらいました。一緒に食べながら会話が弾み、笑顔で「うめえなぁ」のご利用者の言葉。その一言に絆が深まったように感じました。

このような派遣活動に参加でき、貴重な経験をさせて頂いたことに、感謝をしています。東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りすると共に、被害にあわれた方々の復興と生活の安定をお祈りしつつ派遣先を後にしました。

「長寿荘」玄関（派遣到着時）

特養での音楽会

特養事業部　介護課
介護福祉士　上坂　尚子

私にできるだろうかと不安の中、南相馬市の「長寿荘」に着きました。「へぇ～九州から来たのかぁ」と笑顔で私達を受け入れて下さり不安な気持ちも無くなりました。震災後3年半経ち50床の多床室は46床と定員割れをしており、職員が足りないため入所受付が出来ない現状を知りました。私が配属されたのは10名のユニットで、人手不足のため三大介護で手一杯のようでした。ここにもまだまだ震災の影響が大きく残っていることを痛感しました。被災地の現状も見ることができ、テレビで見た以上の衝撃でした。町のあちこちで除染作業も行われており、沢山の土を山積みにしているのを目にしました。

この2週間の経験で改めて「いずみの園」で身に着いたご利用者様本位のケアが生かされ、支援することができました。またケアの質の高さを改めて感じました。

除染作業の風景

派遣時の宿舎（仮設住宅）

## 事業内容ワンポイント説明

**No.4**

**Q：厚生労働省認知症モデル事業の成果はどうだったのでしょうか？**

中津市地域包括支援センター いずみの園
課長　伊藤　保幸

A：「認知症になっても、本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で生活を継続できる社会の実現」を目標に以下の3点について2013年11月～2014年3月まで取り組みました。

①認知症地域支援推進員を配置し、「中津市認知症ネットワーク研究会」の事務局機能を持って、中津市医師会と連携しています。認知症の最新医療の研修会や事例検討会を毎月開催し、認知症支援マップを作成・普及させる中でお互いが顔の見えるネットワークづくりができました。

②認知症ケアパス作成のためにアンケート調査を実施し、実態把握に努めました。

③『認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）』では、ライフサポート研修で医療と介護が生活の一部であることの認識のもと、専門医の講義と見える事例検討会を開催し、130名の方が参加されました。認知症カフェ（「オレンジカフェ」）は、先進地（京都）の取組を学び、中津・本耶馬渓・山国で医療・介護・地域・行政が力を結集して、認知症の方が医療や介護へアクセスしやすくなり、集まれる場の提供を行いました。

今後の課題は、

①医療と介護等の継続的なネットワークの拡充

②認知症疾患医療センターとの連携強化を図って個別支援にも繋げていきたいと思います。

「見える事例検討会」の様子

# 園内の花木を探索

「いずみの園」の敷地内にはたくさんの花木が植樹されています。この花木をシリーズで紹介します。

## ●サザンカ（山茶花）

サザンカは、ツバキ科の常緑広葉樹で、童謡『たきび』の歌詞に登場することでもよく知られています。

漢字表記の山茶花は中国語でツバキ類一般を指す“山茶”に由来し、サザンカの名は山茶花の本来の読みである「サンサカ」が訛ったものといわれています。

庭木や、生垣として使われ、秋の終わりから、冬にかけての寒い時期に、花を咲かせます。椿と似ていますが、椿とは異なり花びらは一枚一枚バラバラになって散っていきます。

# チャプレン通信

堤　健生

「私たちは、今は鏡におぼろに映ったものを見ている。だがその時には、顔と顔とを合わせて見ることになる」

新約聖書コリント書13章

当園は「信望愛」（信仰・希望・愛）という聖書の言葉を掲げています。ワープロで信望愛というつもりで入力したら「辛抱愛」と出まして笑ってしまいました。

冒頭の聖書の言葉はボンヤリとしか映らなかった昔の鏡に私たち人間の姿を重ね、人は物事をはっきりとは見えていないものだというのです。人生の初めと終わり頃だけではなく、人は自分のこと世の中の事これからの事正しいと思ってなす行為、全てにわたって「おぼろに映ったものを見ている」。天変地異だけでなく自分自身の事そのものが私達には、はっきりとしていません。

「信望愛」は依然としてはっきりとしない私達へ神様が下さった道しるべでしょう。

# 県北ハーモニーフェスティバルに参加しました

玉入れの様子

11月22日（土）、中津市内の福祉施設（高齢者、障がい児・者、児童養護、社会事業授産の各施設）11施設の利用者240人がダイハツ九州アリーナに集まり、さまざまな競技に汗を流し大きな声援を送り1日を過ごしました。

「いずみの園」からは特養のご利用者8名と、今年から「ワークセンターシャローム」のご利用者4名も参加されました。

10：00から14：00の間、サプライズレース、運命競争、玉入れ、綱引き、○×ゲーム、お楽しみ会があり、その他にも糸口太鼓の演奏やダンスパフォーマンスもありました。

皆さんお疲れさまでした。

（特養事業部）

# 「マリアガーデン」ハロウィンパーティー

マリアガーデン　前田　直美

10月31日（金）に「マリアガーデン」でハロウィンパーティーを開催しました。保護者の方に予め仮装用の衣装の準備をお願いして、当日は個性あふれる仮装に仕上がりました。まずは在宅事業部（介護保険センター、地域包括支援センター、訪問介護課、訪問看護課）に行きました。

入口にはカメラやビデオを持った職員さんが出迎えて下さり、子どもたちの仮装を見て、あちこちで『可愛い～』という声を聞くことが出来ました。一番大きい子どもが『お菓子をくれないとイタズラするぞ～』と言うと、各部署で準備をしてくださったお菓子を1人ひとりに手渡ししてくれました。子どもたちも、いただいたお菓子を見て、とても嬉しそうな顔をしていました。

この日は全部で8か所の園内を周り、終わるころには袋に入りきれないほどのお菓子を貰うことができました。もらったお菓子を嬉しそうに覗く子どもたちの姿がとても印象的でした。たくさんのご利用者や職員と交流出来、有意義な一日を過ごすことが出来ました。

# 編/集/後/記

今年も残りわずかとなり、また一年が“あっ”という間に終わっていく。

今年1月の新聞記事に『ジャネーの法則』年をとるほど1年が早い」というのが掲載されていた。

年末によく「1年早かったよね」という言葉を耳にするが、これは年のせいでもあるらしい。50歳の人にとって1年は人生の50分の1、5歳の人にとっては人生の5分の1を占める。そう考えると50歳の1年は、5歳の10年に匹敵。だから人生が長くなればなるほど、心理的に1年が早く感じるのだという。

他説には「年をとるに連れて、1年に起きた新しい発見・覚えたことなどが減っていき1年は短くなっていく」という説もある。

新しいことにチャレンジし、新しい人と出会い、色んな経験を積んで、充実した日々を過ごし、“早くない1年”にしたいものだ。（末）


# 受講生募集中!

## 介護職員実務者研修

通信講座：2015年2月1日～ 開講
通学講座：2015年2月1日～ 開講
※詳しくは下記までお問い合わせください。

## 第2期 喀痰（かくたん）吸引等研修

実施期間：2015年1月7日～2月14日
募集定員：30 名
受講費用：60,000円（他テキスト代等）
介護職員が喀痰吸引等を行うための研修です。

お申込み
お問い合わせは

いずみの園 研修センター
TEL 23-1616 担当 岩﨑・安藤まで

Since1978
いずみの園だより

# 創立記念感謝祭 第16回いずみの園フェスタにご来場ありがとうございました。

10月18日(土)10：00から創立記念感謝祭第16回「いずみの園フェスタ」が「いずみの園」の敷地内で行われました。

雲一つない秋晴れの中、会場ではバザーコーナー、屋台コーナー、餅つきコーナーなどでにぎわい、またステージでは、大正琴、吹奏楽、太鼓の演奏、キッズダンス、マジックショー、よさこい踊り、琉球太鼓の演舞、オカリナの演奏などの催しなどで盛り上がり、約3,300人の方が来場され、予定した14時すぎに、大盛況のうちに終了することができました。

来場いただいた方々、170名を超えるボランティアの方々、また、地域において駐車場の提供などにもご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

（いずみの園フェスタ実行委員会）

メイン会場内の様子

「だいふくん」と「くろかんくん」

黒田官兵衛と光姫に扮する司会者

ステージショーの様子

## 福祉の里センター サマリア館の起工式が行われました

かきぜサポートセンター　センター長　豊田　毅士

『福祉の里センター　サマリア館』の起工式が、10月3日（金）11時から市内蛎瀬の「かきぜサポートセンター」建設予定地で行われました。

天候にも恵まれ、来賓として新貝中津市長はじめ武下市議会議員、市福祉部長、地元区長並びに当法人役職員の32名で工事の無事を祈りました。

市長祝辞では「地域福祉の施設として地域の皆様のニーズを受け止め、元気で健康に長生きできる社会づくりが求められています。この共生型の事業は、地域福祉の理想を追う施設として私としても非常に期待しています。」とのご挨拶がありました。

挨拶をされる新貝中津市長

式の最後に冨永理事長が施主として、「この事業は、高齢者、障がい児・者、子育て支援、さらに市民の参加を誘うような『共生社会』のひとつのモデルをめざしたい。当法人の中津市での創業の地であるここ蛎瀬で、新しい形の事業を展開できることは大きな喜び」とお礼を述べました。起工式後、建設工事が始まり、2015年4月事業開始に向け準備を行っていきます。

「鍬入れの儀」の様子

起工式の様子

## クリスマス祝会

特養事業部介護課　主任　戸川　正洋

「いずみの園」では各事業所で、ご利用者と共にクリスマスを祝う行事を行いますが、中でも「特別養護老人ホームいずみの園」の『クリスマス祝会』は盛大に行われます。今年もご利用者の方に楽しい一時を過ごして頂けるように、現在準備を行っています。（12月17日予定）

当日はチャプレンによる礼拝に始まり、職員によるハンドベルの演奏などを行います。

引き続き行われる愛餐会では、豪華な食事がテーブル一杯に並びます。この時ばかりは、日頃食事がすすまない方も満面の笑みで召し上がる姿をよく拝見します。

『祝会』のラストを飾るのは、窓の外に飾り付けたイルミネーションと花火の演出です。歓喜の声と喜ぶ姿・・・。

来年も皆様にとって、より良い一年でありますように！

クリスマスケーキ

昨年のクリスマス祝会の様子

## 特養のご利用者が、本を出版されました。

2012年9月より「特別養護老人ホームいずみの園ヨハネ館」に入所されている、泉琉江（いずみ　たまえ）様が文芸社より『雪よりも白く』を出版されました。

今回の出版を思い立ったのは、95歳の高齢となり目がかすみ、活字を書くのも不自由になってきたので、今を逃してはもう書けないという思いで執筆されたそうです。

幼少時の熱病でお医者さんから、「身体は不自由になるかもしれないが、人間には心がある」とご両親に言われたとのこと。泉様は、「人間には心がある」ということを読者の方に伝えたいと仰っています。

また、外国人の滞在者等に読んでいただきたいという思いから、英文による出版も行う予定です。

（特養事業部）

泉　琉江 様

出版された本『雪よりも白く』

●編集・発行　社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンターいずみの園　〒871-0162 大分県中津市永添 2744　TEL0979-23-1616 (代)
http://www.izuminosono.jp　E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp